

栃木医療センター 広報誌

No.
62

理 念
信 頼 貢 献 協 働



アヤメ

Contents

- 栃木医療センター 新世代に向けて…………… 1
- 透視撮影装置の更新について…………… 2
- ポケさほの導入について…………… 3
- 病院機能評価の受審について…………… 4
- 頭のかたち外来のご案内…………… 5
- 連携医紹介（てらだファミリークリニック）… 6
- マイナ保険証による受付について／交通のご案内…裏表紙

独立行政法人国立病院機構 栃木医療センター

栃木医療センター 新世代に向けて



院長 石原 雅行

昨年度より栃木県が進めてきた「県立病院あり方検討有識者会議」において、県立3病院は公的病院との統合により総合病院化を図ることが望ましいとの方向性が示されました。その統合先として当院が候補に挙げられたことは、これまで地域医療の中核として果たしてきた役割が評価された結果であり、その責任の重さを強く認識しております。この提案を受け、栃木県および国立病院機構本部と慎重に検討を重ねた結果、2026年3月26日に栃木県知事と国立病院機構理事長の間で基本合意を締結し、統合に向けた具体的な協議を進めていく決断をいたしました。

なぜ統合が必要なのか。それは2040年に向けた人口構造の変化という、避けることのできない現実にあります。高齢者の増加により、複数の疾患を抱える患者さんへの総合的な医療の需要が高まる一方で、医療従事者は減少していきます。この状況に対して、医療機能の集約と広域化、そして効率的な運営体制の構築を進めなければ、地域医療そのものが持続できなくなります。統合は単なる組織再編ではありません。「将来の医療体制を守るための改革」であり、その変革において当院は先頭に立つ覚悟です。

当院は約120年の病院史において、明治期の陸軍衛戍病院という「第1世代」から、戦後の国立病院「第2世代」、そして国立病院機構「第3世代」へと、幾度も変革を経験し、その都度、医療の質を高めてまいりました。今回の新県立病院機構（仮称）への移行は、その歴史の延長にある「第4世代」への進化であり、私たちはこの変革を自らの成長の機会として捉えています。こうした変化に不安を感じられる方もおられるかもしれませんが、ここで明確にお伝えしたいのは、組織の形が変わっても、当院の役割は決して揺らがないということです。救急医療、高齢者医療、小児医療、がん医療、精神医療など、地域に必要とされる医療については、これまで以上に質の高いものを確実に提供してまいります。

連携医療機関の皆様、そして地域の皆様とともに築いてきた医療の基盤こそが、次の時代を支える最大の力です。栃木医療センターは、栃木県の医療を牽引し、地域医療を次の世代へと確実につないでまいります。明るい未来に向けて、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

透視撮影装置の更新について

照射主任 佐々木 諒



この度、当院では、透視撮影装置を最新鋭のFPD搭載透視撮影装置「Astorex i9」に更新しました。更新に際して室内の改修を行い、より良い環境の検査室になりました。

この装置は、高画質・低被ばくな透視を実現する検査コンセプト「octave i」を取り入れており、パルス透視のフレームレートに関わらず、従来に比べて照射線量を約65%低減できる特長を有しています。また、従来は

X線管球や寝台を動かして観察したい視野の調整を行っていましたが、「i-fluoro」という機能により、検出視野の中から選択した領域を画像として観察できるようになりました。これにより、患者さんには寝台が動く負担をかけず、術者は見たい所を安全に視野選択することが可能になっています。

装置更新に合わせて大画面モニタを設置しました。以前は検査室内で透視検査の画像しか表示できなかったのですが、PACS（医療用画像管理システム）上のCTやMRI画像、超音波画像などの表示ができることになったことにより、手技支援にも貢献できている印象を受けます。

当院での透視撮影装置を使用した検査は、消化管造影検査のほか、外科のドレナージ術や瘻孔造影^{ろうこう}、整形外科の^{せきずいこう}脊髄腔造影や神経根ブロック、小児外科の^{ちょうじゅうせき}腸重積整復や排尿時膀胱尿道造影、泌尿器科での尿管ステント挿入術などがあります。そのため、多目的に使用できることが求められますが、各診療科の医師からは以前より見やすくなった、検査・手技がやりやすくなった等の声が上がっています。

今回の更新により、より良い環境下で透視撮影検査を提供できるようになりました。連携医の先生方からご紹介いただく患者様にも、低被ばく線量で診断価値の高い画像を提供できると考えております。安心・安全な医療の提供を通じて地域医療に貢献できるよう、職員一同取り組んで参りますので、皆様からの検査・治療のご依頼をお待ちしております。

ポケさぽの導入について

地域医療連携係長 佐藤 博子



当院では本年4月より、入院予約をされた患者さんへの利便性向上と、よりきめ細やかなサポートの提供を目的として、LINEを活用した情報共有サービス「ポケさぽ」を導入いたしました。

「ポケさぽ」は、入院生活や必要な準備に関する情報を、患者さんご自身のスマートフォンへ適切なタイミングで配信・共有できるサービスです。従来の運用では、窓口での入院手続きに伴う説明事項や確認作業が多岐にわたり、患者さんを長時間お待たせしてしまう場面が少なくありませんでした。しかし、本サービスの導入により、患者さんをご自宅などで事前に必要な情報を把握・

確認することが可能となりました。その結果、入院当日の手続きが格段にスムーズに進むようになり、待ち時間の確実な短縮と、患者さんのストレス軽減を実現しております。

さらに、同じく4月から「入院前説明の予約制」を並行して開始いたしました。この取り組みにより、職員がこれから来院される患者さんを正確に把握できるようになり、個別の事情に応じて事前入力や準備を徹底できる体制が整いました。予約件数は運用開始から着実に増加しており、院内の混雑緩和や来院者数の分散により、職員の業務負担軽減にも大きな効果が表れています。

こうしたデジタル化と運用改善は、単なる効率化にとどまりません。事前に情報を確認できるようになったことで、患者さんからは「何を聞けばいいのか整理できた」と、より具体的な質問が寄せられるようになりました。これを受け、職員も一人ひとりの状況に応じた個別対応に注力できるようになり、説明や支援の質が向上することで、患者サービスの充実につながるという好循環を生んでいます。

当院は今後も「ポケさぽ」の有効活用などにより、デジタルと対話の力を融合させながら、患者さんにとってより安心で快適な医療サービスの提供に努めてまいります。皆様の引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。

病院機能評価の受審について

診療情報管理係長 高橋 邦明

2026年1月27日と28日の2日間にわたり、第三者機関である公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審しました。病院機能評価とは、医療の質や安全性、病院運営の状況などについて、全国共通の基準に基づき病院全体を評価する制度です。診療内容に加え、患者さんへの説明体制、安全管理、個人情報の保護、職員教育など、多角的な観点から確認が行われます。



受審の目的は、評価を受けること自体ではなく、日頃の医療や業務を客観的に振り返り、より良い病院づくりにつなげることにあります。第三者の視点で点検を受けることは、患者さんに安心して医療を受けていただくための大切な取り組みといえます。

今回の受審に向けては、診療部門、看護部門、診療支援部門、事務部門などの多職種が連携しながら準備を進めてきました。診療情報管理士としては、診療記録や関連書類の確認・整理、評価基準に基づく情報提供の調整などを通じて、受審を支える役割を担いました。異なる職種との情報共有を重ねる中で、日常業務を見直すきっかけにもなりました。

評価当日は、事前に提出した資料の確認に加え、評価調査者による院内視察や職員へのヒアリングが行われました。診療や看護の体制、安全対策、感染対策、患者さんへの情報提供のあり方など、様々な項目について具体的に評価され、各部署がそれぞれの立場で対応しました。

今回の受審の結果として、ほとんどの項目が適切に行われており、最も低いC評価（一定の水準に達しているとはいえない）は一つも無く、「病院機能評価認定」となる通知をいただきました。当院の取り組みについて一定の評価をいただくとともに、今後さらに改善すべき点についても貴重な助言を受けることができました。これらを活かしながら、より安心・安全な医療のために職員が協力し、地域の皆様から信頼される病院であり続けられるよう、継続的な業務改善に取り組んでまいります。

頭のかたち外来のご案内

当院では、2025年9月より頭のかたち外来を開設しました。近年、乳児の頭の形に対する関心は高まっており、保護者からの相談も増加しています。頭の形の変化の多くは体位によるものですが、経過観察でよいものから治療介入が望ましいものまで幅があり、適切な時期での評価が重要です。

当外来では、病的ではない向きぐせ、外力による変形（位置的頭蓋変形症）、主に斜頭症・短頭症（絶壁頭）などのゆがみを対象に診察し、必要に応じてヘルメット療法を行います。小児医療に携わる医師が診察を行い、頭の形の評価とご家族への説明を丁寧に行っています。ヘルメット療法（自由診療）には、国内で広く使用されているBerry社製ヘルメットを用い、適応や導入時期についてご家族と相談しながら進めています。また、頭蓋縫合早期癒合^{ゆごう}症など専門的対応が必要と判断した場合には、速やかに専門施設へご紹介いたします。

診療実績（2025年9月～2026年4月）

受診患者数：65例

（うちヘルメット導入：26例、自治医科大学脳神経外科に精査依頼の紹介：2例）

中等症以上の斜頭変形が約半数、短頭変形は約5%

平均治療期間：約4か月（125日）

治療完遂例：5例（斜頭・短頭重複あり）

- ・斜頭変形：5/5例（100%）で正常まで改善
- ・短頭変形：4/5例（80%）で正常まで改善（1例で軽症残存）

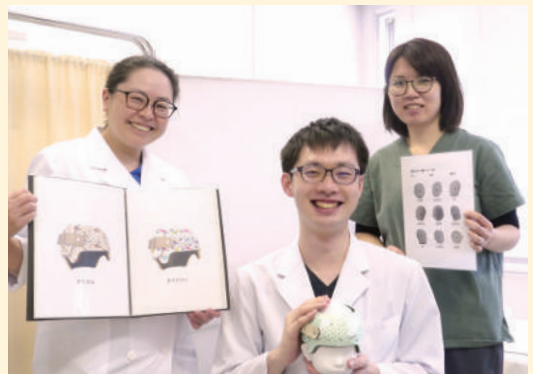
ご家族からは「やってよかった」との声を多くいただいております。詳細は、当院ホームページ「頭のかたち外来」をご参照ください。

受診について

【ご予約・お問い合わせ】

TEL：028-622-5560（予約センター）

- ・初回診察は保険診療で対応しております。紹介状をご持参いただくと、スムーズにご案内可能です。
- ・ヘルメット療法は装着開始時期が重要なため、早めの受診をおすすめします。
- ・変形の程度確認のみのご相談でも受診可能です。



てらだファミリークリニック

院長 寺田 寛

2009年10月、宇都宮市雀の宮にて小関内科診療所様を継承し、開院させていただいてから早いもので17年が経過いたしました。

私の医師としての歩みは、長崎医療センター（旧・国立長崎中央病院）での初期研修後、対馬や平戸（生月）といった離島・僻地での勤務、そして自治医科大学附属大宮医療センターでの後期研修を経て、再度の離島勤務、自治医科大学外科への入局という道を辿ってまいりました。離島での外科医時代は、予定手術よりも緊急対応に追われる日々でしたが、そこで培われた「まずは何でも診る」というプライマリ・ケア医としての研鑽が、現在の私の礎となっています。現在は、その「外科マインド」を持ちつつ、お子様からご高齢の方まで、疾患だけでなく「生活の背景」を重んじる家庭医としての診療を心がけております。

継承当時から計画していたクリニックの建て替えは、奇しくもコロナ禍の困難な時期と重なりました。しかし幸いにも、近隣の方から駐車場用地をお貸しいただけるなどのご縁に恵まれ、2022年11月に無事、新築移転を果たすことができました。この移転では、発熱外来での経験を教訓に、通常外来と発熱等外来の入り口・動線を完全に分離した設計を取り入れました。どのような状況下でも、地域の方々が安心して受診できる体制を整え、現在も診療を継続しております。

病院と診療所がそれぞれの役割を分担し、適切にバトンを繋ぐことこそが、地域全体で患者様を支える基盤となります。院内には、通院される方の心を和ませるよう、私の故郷である長崎県・杵岐の風景写真も展示しております。

今後とも栃木医療センター様との緊密な連携を大切にしながら、微力ながら地域医療の発展に尽力してまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



ご案内

<https://terada-family-clinic.jp/>

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00 ~ 12:00	●	●	×	●	●	●	×
14:00 ~ 18:00	●	●	×	●	●	●	×

※休診日：水曜日・日曜日・祝日



マイナ保険証による受付について

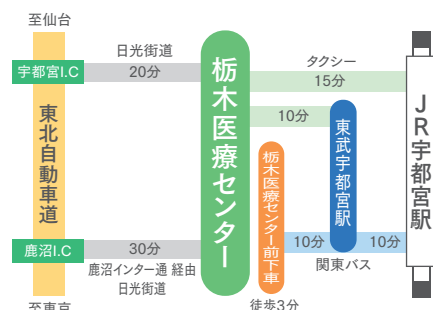
2025年12月2日より、従来の健康保険証は原則として使用できなくなったため、健康保険証を利用登録したマイナンバーカード（以下「マイナ保険証」）を使用していただく必要があります。当院では、玄関ホールに専用端末を設置しています。マイナ保険証を利用すると次のようなメリットがありますので、「来院の都度、受診の前に」受付をお願い致します。

- ・過去に処方されたお薬の情報や特定検診の結果を、ご本人の同意があれば医師や薬剤師などが共有でき、正確なデータに基づく医療が受けられます。
- ・限度額認定証を提示しなくても、窓口で高額療養費制度の限度額を超えた額の一時的な支払が不要になります。



また、事前に登録をすると、スマートフォンをマイナ保険証として利用できます。当院は、スマートフォンのマイナ保険証受付にも対応しております。

交通のご案内



発行人

独立行政法人国立病院機構
栃木医療センター
院長 石原 雅行

〒320-8580

栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37

TEL. 028-622-5241

FAX. 028-625-2718

URL. <https://tochigi.hosp.go.jp/>

